

日中経済交流研究会新聞

日本経済大学神戸三宮キャンパス
経済学部商学科准教授 津川ゼミ訪問取材

～最近の若者は夢がある！留学生を惹きつける日本の魅力～



日本経済大学Profile

福岡県大宰府市近郊に本学のある私立大学。主な卒業生は、CHAGE and ASKA、(株)一蘭 代表取締役社長 吉富 学氏など。神戸三宮キャンパスの他に渋谷にもサテライトキャンパスあり。<https://www.jue.ac.jp>

多様な国籍の留学生が参加

今回は日中経済交流研究会の会員で、(株)津川製作所の代表でもある津川礼至さんが講師をしている津川ゼミを訪問し「留学生との交流を通して、教育や外国人雇用について考える」というテーマで学生さんたちと話しました。

当日は、津川ゼミの卒業生で、勝井工業(株)の小島広臣さん(日中経済交流研究会会員)の会社へ就職されたベトナム社員Le Thi Thien Ngaさんが、入社後の職場の体験談や、勝井工業さんの紹介ビデオを流すところからスタートしました。参加した学生さんは実に25人。国籍も、中国、ベトナム、スリランカ、ネパールと多岐にわたります。

グループ討論で意見交換

学生さん全員の自己紹介に続き、参加した企業側10社からも簡単な会社紹介を行った後、社長1名に対して学生3～4名のグループを作り、社長がそれぞれのグループを順番に回る形式で、約15分のグループ討論を3回行いました。

テーマは自由でしたが、私が参加したグループでは主に、
①将来、日本に住みたいか？自国に帰りたいか？
②日本に来たいと思ったのはどうしてか？
③日本から自国に持って帰りたい魅力的なことはあるか？
という三つのテーマで順番に話しました。

合計10名の学生さんとお話ししましたが、実に7名が将来的にも日本で働きたいと答えました。中には、日本で起業し、自国と両方で商売がしたい！という志の方もおられました。

日本はチャンスがある国

日本に来たのは「稼げるから」という理由もちろん聞かれましたが「チャンスがある国」という期待を持っているのが印象的でした。自国では身分によって就ける仕事に限られているそうです。それに引き換え日本は、アルバイトといえども選べる仕事が多い分、選択肢が広がるということでした。

いずれ自国に帰りたいと話していた学生さんも、日本の「傘」の技術を学んで自国へ持って帰りたいそうです。興味があることを学べる場があるのは、日本が豊かだからできるのだと思います。そういえば「今でしょ！」の林 修先生もテレビで「嫌ならやめなさい。勉強はぜいたくなんだから」と

言っていたのを思い出しました。

誠実な国民性が日本の魅力

日本の魅力については、技術的な話が出るかと思っていたのですが「責任感の強さ」や「時間を守るところ」といった、国民性とも言える要素を挙げてきたのは驚きでした。自国だと時間を守らない人が多いようですが、役職がある、なしにかかわらず、時間を守るという基本的なことができることは素晴らしいという意見は、複数の学生さんから聞かれました。

また「日本人は予習を80%くらいしてから仕事にあたり、悪いところをすぐに直すのも見習いたい」という方もおられました。技術も学び、そのような人間性も習得すれば、自国に戻ると偉い人になれる！と言うのです(笑)。

自分たちに足りないものを受け止めて吸収し、技術を得ることでもっと自分を高めたい！と純粋に考えている学生さんとの話は「将来の夢をきちんと持っている若者たちだな」と思えました。



今回、海外の学生さんと交流する中で、外国人採用を高いハードルと思いすぎていたことに気がつきました。言葉の不安があったとしても、皆「技術を高めたい」という意欲を持って日本にきていますから、私たちが常日頃、当たり前前に大切にしている姿勢を見せることで、着実な成長を見せてくれることでしょう。

日本は今後、どんどん少子化が進みます。日本の製造業のみならず、あらゆる産業で海外の若者の助けが必要になってくるのだろうな、と感じさせられた訪問となりました。

日中経済交流研究会 広報委員会
文：(株)エーディエフ 島本 敏